

JAUW 茨城支部だより 2015 年度-2 号

URL <http://jauw-ibaraki.net/> 2015 年 8 月 23 日 一般社団法人 大学女性協会(JAUW)茨城支部 発行

残暑お見舞い申し上げます。皆様、今年の記録的な暑い夏をいかがお過ごしだったでしょうか？私は、我が家の1歳7カ月を過ぎた孫に振り回されながら、定年退職した夫とイク爺、イク婆をしている次第です。1月頃は這い這いと伝い歩きでやっと立っていた孫は、今ではスタスタ歩いてボールを蹴ることに夢中。好奇心旺盛で手当たり次第日常生活の調度品を触り押し回したり、スマホの操作も難なくこなします。1年の育児休暇を経て職場復帰した娘のサポートをしようと、自分たちの子育てでは余裕がなかった子育てと人間の成長過程を楽しんで観察しています。

立つことも歩くことも出来なかった人間の未熟な赤ん坊が、1歳を過ぎた頃からの成長ぶりは驚異的です。人間は未熟な存在で生まれ、幸せ装置を作るのに20年かけて学ばなければならないとの長谷川先生の講義を思い起こしながら、孫の好奇心旺盛な学びの芽がつぶされないように、励ましていく存在でありたいと思っています。また、孫は人見知り強く泣き虫ですが、男だから泣かないのとは絶対に言わないように娘に言っております。泣きたい時には男だって弱さを見せてもいいのだと、ジェンダーという色眼鏡で子育てしないように娘夫婦に伝えています。男女平等意識の大切さを大学女性協会でも学びましたから。

4月に支部長交代してから4カ月目、6月には茨城大学でのゲストティチャーとして連続出前講座、7月には定例会、9月は水戸市の男女平等月間市民企画講座、10月の全国セミナーと多岐にわたる事業が続きます。体調管理に気をつけながら、チーム茨城支部として前進していきたいと思っております。(加藤支部長記)

水戸市民講座案内

自分らしく輝く生き方発見塾

表情・メイクレッスンと茶道で自分磨き！編

〈内容〉

◆講話と実践「あなたの個性を引き出す表情メイクアップ」

講師 フェイスクリエーター 菊池 晶子さん

※ご自身が普段使っているメイクアップ道具をお持ちください。

◆お抹茶の魅力 講師 安藤 隆子さん

と き：2015年9月13日(日) 午後1時～4時

ところ：みと文化交流プラザ(5階501研修室)

定 員：30名

参加費：無料

☆参加申し込み先・問い合わせ先

水戸市男女平等参画課

電話 029-226-3161

みなさん！自分の魅力を再発見しませんか！

ご参加をお待ちしております。



茨城大学連続講座を終えて

昨年秋に引き続き長谷川幸介先生の授業時間をいただき6月16・23・30日の3回「日々の幸せのために～ワークライフバランスを考える～」のタイトルで出前講座を開いた。

1回目：高校生の男女平等意識となりたい仕事の調査結果などの報告。グループ討議。会員2名の体験メッセージ

2回目：学生の質問に回答。伝えたいデータ（幸せ度、家庭での家事分担、M字カーブ、賃金男女格差）の報告。ジェンダーに関する漫画を使ったワークショップ。会員2名の体験メッセージ

3回目：大学生の恋人との交際意識調査報告。会員の1分スピーチ。長谷川先生の講義。ミニシンポジウム

の構成で行ない、学生には毎回授業後に「ふり返り」を記入してもらった。

1回目のグループ討議は他の意見を聞くことで自分の意見を客観的に捉えることができたようだった。会員の体験メッセージは今まで身内からも聞いたことがないリアルな話で学生に一番好評だった。準備した会員も自分の人生を振り返るよい機会になった。

2回目の漫画のワークショップでは、「家事は妻がやるもの」という先入観を多くの学生が持っていた。自分には無いと思っていた固定観念に気づいた驚きが「ふり返り」に沢山記入されていた。

3回目のシンポジウムでは、「講座の感想」「なりたい職業」「未来」について意見交換した。同世代の意見だけでなく年配の聴講生の意見も聴けて良かったとの感想が多くあった。

翌週の講座に「ふり返り」を生かすために1週間で学生の質問・意見をまとめて参考資料をつくるのは大変な作業だったが、私たち自身も内容を深めることができ、学生には「幸せ」や「人生」をじっくり考えられて面白かったと喜んでもらった。また「ふり返り」を通じて受講した学生の心の変化を感じることができた。会員同士が力を合わせて出前講座に取り組んだ事と今の学生の考えや思いを知ることができた事は今後の私たちの活動にも役立つと思った。（N・K記）



7月定例会～「コーヒーに親しむ」のひととき

コーヒー大好きな私、七月定例会のお知らせにとび付きました。定例会にはとんとご無沙汰の私でしたが、今回はどうしても出席したいと午後の仕事はキャンセルして出席しました。

茨大は私の描いていたイメージとすっかり面変わりしていて立派な図書館に洒落たカフェ、それにまず驚かされました。

そこで始めにサザコーヒーさんのエチオピアにあるコーヒー園の映像をみながらコーヒー豆の栽培からの講座など興味ふかく拝聴しました。特に私は三年前にエチオピアを訪ねた時、所謂「コーヒー・セレモニー」に参加しエチオピア独特の一連の作業の末に出されたコーヒーを飲んだことを思い出しまし

た。

世界ではコーヒー文化は古いですが日本ではまだまだ発展途上なのかもしれません。コーヒーについての詳しい話の後、実習形式で淹れ方を教えて頂き、今までは只々美味しさだけを求めて淹れ方には心を配らなかった自分に気が付きました。

コーヒーについて新しい気付きをさせて頂き興奮気味の後、美味しいケーキとコーヒーを出していただき大満足の一と時を過ごすことが出来ました。

その後家でも教えて頂いた淹れ方を意識しながら淹れています。ただ三人以上のお客さんの時はパーコレーターまかせですが・・・。（M・K記）

女性団体連盟主催 女性団体リーダー等研修・交流会に参加して



▲ 7月31日県庁9階講堂にて

「脳を活性化し、地域社会に貢献する」のタイトルに興味惹かれ参加した。講師の高井洋子氏は横浜生まれの54歳。

まず講話の口火に「親の稼業は焼鳥屋、友達がみんな塾通いしている小6の頃、焼鳥屋を手伝い、夢は社長になることだった。」というやんちゃそうな話に身を乗り出してしまった。

短大を出て、岐阜の家具屋に嫁いだが、粉飾決算の倒産しそうな大店だった。そこでまた、家具業界の構造的な販売ルールに立ち向い、彼女の女性として、消費者としての感性、表現力で、若い人に喜んでもらえる家具をデザインし、フランチャイズチェーンを展開、70億を売り上げるビジネスを創り上げた。現在は転職して、中小企業の支援、業績向上のビジネスモデル塾の「株）キャリティ」の社長となり、売り上げの1%を必要とする人々に社会貢献をしている。今はカンボジアの家族のいない子供たちを支援。子供達に自力で立ち上げられるよう起業を身につけさせているとのことだった。彼女からは実体験、実例を挙げながら、説得力のある言葉、「夢は人に語って初めて実現する」「客に物を売るよりも客が喜ぶことは何かを考えること」「十分な検証が大切」「鳥瞰図でものを見る」などさらさらと出てきたが、小、中、高校時代、彼女の親が毎週必ず本を1冊買ってくれ、本を読み漁ったという体験こそ人の幸せについて豊かな想像力を培ったのではないかと思えた。(H・I記)



新入会員紹介

A・Kさん

今年度より入会させて頂きました北村篤子です。常総市（水海道）に住んでおります。2013年にハーモニーフライトいばらきのメンバーとして研修を行った際、今高様に大変お世話になりました。そのご縁で大学女性協会をご紹介頂き入会の運びとなりました。今高様にはとても感謝いたしております。男女平等参画やジェンダー平等といった言葉は、ハーモニーフライトに参加するまで全く意識しておりませんでしたので、まだまだ知らないことが多く、勉強する必要があると感じています。私共の経営する会社は製造業ですので、その経営において女性の働き方を見直す必要があると感じ、試行錯誤しているところです。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

M・Tさん

今年度より入会させていただきました北茨城市在住の滝睦美です。大学卒業後、縁あって茨城に参り、30年になるところです。茨城県庁に在職し、現在は地域振興の仕事に携わっております。

日々の仕事に追われ、自分の働き方など意識することなく来てしまいましたが、会に入り、諸先輩や様々な立場の方々と交流させていただく中で、女性が働き続けることの意味を再考し、働き続けることのできる環境づくりについて、自らの経験が少しでも生かせればと考えるようになりました。どうぞよろしく願いいたします。



全国セミナーでは支部会員が大活躍！ぜひご参加ください

すでに本部からご案内があったと思いますが、10月17日(土)、18日(日)の2日間、つくば国際会議場で、全国セミナーが開催されます。支部からは17日に、Yさんが「女性と仕事」に関する内容での発表をします。基調講演はひたちなか市(旧勝田市)出身の元日経記者の鹿嶋敬さんです。また夕刻からは会議場内のレストランエスポワールで懇親会があり、山口副知事、森田女性政策統括監も出席されます。18日は支部会員のSさんが「税制」について、茨城行政相談委員協議副会長としてI前支部長が「行政相談と女性の社会参画」についてお話しします。加えて分科会「考えよう!女性と法律・社会通念」ではMさんが司会・進行役を務めます。支部会員があちこちで大活躍の全国セミナーに、ぜひ参加して、支部会員をサポートし、大いに盛り上げましょう。よろしく願いします。



編集後記

乳幼児を持つママたちのためのワークショップを開いている。そこでは子どもを持った喜びを改めて感じていただくこと、出産時のことを語り合ってもらっている。ところが、最近、こちらの意図に反して自分は帝王切開だったと涙ぐむママたちが増えてきた。どうやら帝王切開で生まれた子は我慢強くないのだ、どこか体が弱いのだ、また母親失格だのという噂がネット上でまことしやかに流れているらしい。医学の進歩によ

H・Iさん

皆様はじめまして。今年度入会しました飯田です。私は、今年3月にひたちなか市役所を退職いたしました。在職中最後の10年間は、女性行政と消費者行政に関わってまいりました。その間、先輩会員である安田さんや松本さんには大変お世話になりました。

退職当初、これからは自分のやりたいことだけに時間を使うようにしようと思いましたが、それではあまりにも怠惰になってしまうことや少しでも社会と関わってみたい、勉強も必要という思いから仲間入りさせていただくことにしました。皆様方についていけるかとても不安ですがどうぞよろしく願いいたします。